

本人支援の5領域



急激に事業所数が増加している児童発達支援。急激に増加した結果、粗雑な支援が露呈、虐待なども社会問題となりました。今や支援の質は社会的課題となっています。

この課題に応えるために厚生労働省によって「児童発達支援ガイドライン」は作られました。児童発達支援ガイドラインは児童発達支援が提供すべき支援の内容を示し、支援の一定の質を担保するための全国共通の枠組みを示すものです。

以下より、ガイドラインの中で示されている本人支援の5領域について図示します。この5領域は障害児保健福祉にとどまらず、障害者保健福祉に波及しようとしています。支援に求められている支援の全体的なイメージを理解しましょう。

240
RISING



(ア) 健康・生活



a ねらい

- (a) 健康状態の維持・改善 (b) 基本的な生活スキルの獲得 (c) 生活のリズムや生活習慣の形成

b 支援内容

- (a) 健康状態の把握 (b) 健康の増進 (c) リハビリテーションの実施 (d) 基本的な生活スキルの獲得 (e) 構造化等により生活環境を整える

(イ) 運動・感覚



a ねらい

- (a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的な手段の活用 (c) 保有する感覚の統合的な活用

b 支援内容

- (a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 身体の移動能力の向上 (d) 保有する感覚の活用 (e) 感覚の補助及び代行手段の活用 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

(ウ) 認知・行動



a ねらい

- (a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

b 支援内容

- (a) 感覚や認知の活用 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 (d) 数量、大小、色等の習得 (e) 認知の偏りへの対応 (f) 行動障害への予防及び対応

(エ) 言語・コミュニケーション



a ねらい

- (a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用

b 支援内容

- (a) 言語の形成と活用 (b) 受容言語と表出言語の支援 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 (e) 読み書き能力向上のための支援 (f) コミュニケーション機器の活用 (g) 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

(オ) 人間関係・社会性



a ねらい

- (a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加

b 支援内容

- (a) アタッチメント（愛着行動）の形成 (b) 模倣行動の支援 (c) 感覚運動遊びから抽象遊びへの支援 (d) 一人遊びから共同遊びへの支援 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 (f) 集団への参加の支援